

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.92



2021 年 12 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 令和3年度 活動報告と今後の進め方・・・・・・・・・・	理事長 渡邊 誠・・・	2
○ 2021年度さわやか福祉財団全国フォーラムに参加して・・	理事長 渡邊 誠・・・	3
○ FIBA ワールドカップ2023アジア地区予選・・・・・・・・・・		4
男子日本代表1次予選日程		
○ FIBA 女子 アジアカップ2021 結果・・・・・・・・・・		7
日本代表は大会史上初の5連覇		
○ FIBA 女子ワールドカップ2022 予選・・・・・・・・・・		11
日本代表はグループC		
○ 第97回天皇杯・第88回皇后杯ともに最終ラウンドへ・・・・・・・・		12
○ Bリーグ情報・・・・・・・・・・		13
○ 東京2020オリンピックのバスケットボール・・・・・・・・・・	普及部・・・	15
開幕まで「日本一丸」のストーリー		
○ 会員だより リングに向かって“跳べ”10年後の子供達・・・・・・・・	普及部・・・	20
ミニバスチーム「HASUNI」		
○ 高校籠球ふるさと記（宮城県編）・・・・・・・・・・	事務局・・・	22
○ 高校籠球ふるさと記（岡山県編）・・・・・・・・・・	事務局・・・	29
○ 事務局だより・・・・・・・・・・	事務局・・・	34
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・		35

令和3年度 活動報告と今後の進め方

理事長 渡辺 誠

10月28日、振興会の事務所に大野会長・副会長（小澤・上谷）・副理事長（蒲田・佐々木・杉山）にお集まりいただき、標記の件について打ち合わせしました。

令和3年4月の理事会、5月の総会などの決議を書面により行ったことを報告。シニア交歓大会は、令和4年2月3・4日の2日間、代々木第二体育館での開催予定で、参加が推察されるチームに既に大会要項を案内しました。今後の議事についても書面決議とし、令和4年度4月以降に理事会の開催を考えています。

「バスケットボールプラザ」の発行は、編集委員の皆さんの協力で委員会を開催せずに発行しましたが、最終の校正チェックのみ一堂に集まったらよいのではないかと提案がありました。肖像権（写真）などの掲載について振興会では対応ができない部分があるので検討の課題としました。

映像を「NHKアーカイブス」に提供し「資料アーカイブス」として採用されました。

日本スポーツ振興センター「J B B S スポーツ資料館」のリストに「神田バスケットボール資料室」を登録申請しました（受理の可否は、未定）。油井康さんの「第13回スポーツグランプリ」受賞に協力しました。

現在、事務局は、火曜日のみ事務所での活動を行っています。

今後の進め方については改めて確認し、次回「総会資料議案書」（案）を作成して提案します。

会員の皆様には、引き続き振興会の活動についてご協力ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

本バスケットボールプラザ92号、表紙裏に掲載の写真は、「神田バスケットボール資料室」に収集・保管してある戦前に発行された資料の公開です。

- ① 戦前に開催された国際大会のプログラム「第10回極東選手権大会」から「日満交歓大会」、東京オリンピック中止を経て日本独自の国際大会「東亜競技大会」と続く日本の混乱の歴史を示す。
- ② バスケットボールの普及のために個人や会社などが独自にこの時代のバスケットボールを研究しその内容を発行している「バスケットボール」、これは一部15銭で販売、「籠球研究」は非売品。
- ③ 大正13年発行・著者「藤山快隆」、昭和5年発行・著者「李想伯」、昭和3年発行・著者「鈴木重武」などの3冊は、戦前に発行された代表的な「バスケットボール指導書」。

以上

2021 年度さわやか福祉財団全国フォーラムに参加して

理事長 渡辺 誠

さわやかな秋晴れの 11 月 1 日、日比谷・東京会館で開催された公益財団法人さわやか福祉財団の「創立 30 周年全国交流会」に参加しました。代表の堀田力さんと理事長の清水肇子さんの指導の下、様々な社会の課題に前向きに取り組み、解決する力にはいつも敬服するばかりです。

最初に登壇した特別ゲストは、J リーグ相談役の川淵三郎さん。1991 年に J リーグ法人組織が発足のとき、J リーグの理念と重なり合う団体に寄付したいと考え、さわやか福祉財団を寄付先として選択しましたと。J リーグは、地域に根差したスポーツ団体を目標にしており、さわやか福祉財団も同様に地域に根差した福祉活動を行う団体であり、現在まで寄付をしているとのこと。J リーグ 100 年構想「好きなスポーツを全国に広げようとする」という考え方である J リーグの理念は、今年で 29 年になるが、全国に着実に広がっている、と話されました。

その後、代表の堀田力さんから、さわやか福祉財団の理念「新しいふれあい社会づくり」に向けての 30 年間の歩み・活動について説明がありましたが、その中から振興会として今後取り組むべき活動のヒントが得られていたように思いました。



（財団の活動 ➡ 振興会が取り組むべき対応）

- ・ **スポーツによる多世代交流の実践 ➡ Bリーグチーム、Wリーグチームへの展開の検討**
1997 年から J リーグと共催で J リーグ選手、施設の高齢者、子供たちが交流するサッカーさわやか広場を開始している。参加した高齢者には喜びを感じてもらい、選手には社会貢献活動への意欲を、また子供たちにはやさしさと労りの気持ちをはぐくんでもらうことができた。
- ・ **共生型居場所の呼びかけ ➡ いつでも、だれでもバスケットボール愛好者が集まれる場所の提供**
居場所の必要性を提唱、イベント型でなくいつでも誰でも自由に集まれる居場所がふれあい社会の基礎であることを訴えかけた。
- ・ **高齢者の社会参加の機会を提唱 ➡ シニア世代のバスケットボールの普及などの還元・支援の協力しやすい仕組みづくり**
シニアの社会参加を呼びかけるとともに行政に対しそのための仕組みづくりを提唱。高齢者の社会参加の機運は着実に高まっている。

高齢者との交流の場を提供するとともに高齢者の社会参加の仕組みづくりの機会を提唱するなど振興会の活動に置き換えて、非常に参考になりました。

最後に川淵三郎さんとお会いし、会報「バスケットボールプラザ」をお渡しし、1978 年以来的振興会の活動についても簡単に紹介させていただきました。 以上

FIBA ワールドカップ 2023 アジア地区予選

男子日本代表 1 次予選日程

[編集部]

去る 8 月 31 日、「FIBA バスケットボールワールドカップ 2023」のアジア地区予選における組み合わせと日程が発表された。ワールドカップ 2023 は、日本、フィリピン、インドネシアの 3 ヶ国共同開催である。

出場できる開催地枠として、日本とフィリピンは決まっているが、インドネシアは 2022 年 7 月開催のアジアカップ 2021 で上位 8 位に入る必要がある。

アジア地区予選には、1 次予選の Window 1 ～Window 3、2 次予選の Window 4 ～Window 6 があり、出場チームはグループごとに原則としてホーム&アウェイ方式で対戦する。

1 次予選の組み合わせと開催期日

グループ A	ニュージーランド	韓国	フィリピン	インド
	(25位)	(29位)	(31位)	(78位)
グループ B	オーストラリア	中国	日本	チャイニーズ台北
	(3位)	(28位)	(35位)	(68位)
グループ C	ヨルダン	レバノン	インドネシア	サウジアラビア
	(39位)	(56位)	(85位)	(87位)
グループ D	イラン	カザフスタン	シリア	バーレーン
	(22位)	(72位)	(82位)	(102位)

チーム名の下段順位は2021年8月9日時点のFIBAランキング

Window 1 2021 年 11 月 22 日 ～ 11 月 30 日

Window 2 2022 年 2 月 21 日 ～ 3 月 1 日

Window 3 2022 年 6 月 27 日 ～ 7 月 5 日

(「FIBA アジアカップインドネシア 2021」が 2022 年 7 月に開催される予定)

2 次予選進出チーム (各グループから 3 チーム)

- ・グループ A : フィリピンとフィリピンを除く上位 2 チーム、
- ・グループ B : 日本と日本を除く上位 2 チーム、
- ・グループ C : ●インドネシアが開催地出場枠に入った場合、
インドネシアとインドネシアを除く上位 2 チーム、
●インドネシアが開催地出場枠に入らない場合、上位 3 チーム、
- ・グループ D : 上位 3 チーム

2 次予選の組み合わせと開催期日

グループ E : グループ A とグループ C からの進出 6 チーム

グループ F : グループ B とグループ D からの進出 6 チーム

Window 4 2022 年 8 月 22 日 ～ 8 月 30 日
 Window 5 2022 年 11 月 7 日 ～ 11 月 15 日
 Window 6 2023 年 2 月 20 日 ～ 2 月 28 日

本戦出場チーム 開催地枠出場チームを含む FIBA ルールに基づく成績上位 **8 チーム**

日本チーム（グループB）の1次予選日程と途中経過

Window 1 2021 年 11 月 27 日(土) 中国 VS 日本 於 ゼビオアリーナ仙台
 2021 年 11 月 28 日(日) 日本 VS 中国 於 ゼビオアリーナ仙台
 Window 2 2022 年 2 月 25 日(金) 台北 VS 日本
 2022 年 2 月 28 日(月) オーストラリア VS 日本
 Window 3 2022 年 6 月 30 日(木) 日本 VS 台北
 2022 年 7 月 3 日(日) オーストラリア VS 日本

Window 1 日本代表チーム

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	ホーバス トム	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	佐々 宜央	宇都宮ブレックス
アシスタントコーチ	前田 顕蔵	秋田ノーザンハピネッツ
アシスタントコーチ	勝久 ジェフリー	川崎ブレイズサンダース

<「AKATSUKI FIVE」選手>

※所属は2021年11月25日現在

NO	選手名	P	身長 cm	所 属
1	齋藤 拓実	P G	172	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
2	富樫 勇樹	P G	167	千葉ジェッツ
3	エヴァンス ルーク	C	203	ファイティングイーグルス名古屋
6	比江島 慎	S G	191	宇都宮ブレックス
10	竹内 公輔	P F	206	宇都宮ブレックス
11	チェンバース アキ	S F	191	群馬クレインサンダーズ
19	西田 優大	S G	190	シーホース三河
21	藤井 祐真	P G	178	川崎ブレイズサンダース
32	シェーファー アヴィ 幸樹	P F	206	シーホース三河
51	古川 孝敏	S F	190	秋田ノーザンハピネッツ
77	岡田 侑大	S G	189	信州ブレイズウォリアーズ
83	張本 天傑	S F	198	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平 均		190.1	

PG ポイントガード、SG シューティングガード

SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

Window1 日本の戦績

11月27日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
中国	27	18	19	15	79
日本	11	18	11	23	63

11月28日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	10	19	21	23	73
中国	29	24	31	22	106

東京 2020 オリンピックを境に男子日本代表チームは、ヘッドコーチにオリンピック女子で決勝進出し銀メダルを果たしたトム・ホーバス氏が就任。代表選手もかなり入れ替わった。

ホーバス・ヘッドコーチはワールドカップへ向けて、新たにB 1 リーグから 15 名の代表選手を選出。チーム目標として、ハイスピード、3 P シュート、粘り強いディフェンス力のUPを掲げ、短い合宿を経て最初の試合に臨んだが、総合力に勝る中国に完敗となってしまった。

東京オリンピックに出場できなかった中国は、ワールドカップへ向けて周到な準備を整えて仙台へ乗り込んだとみられ、あらゆる点で日本を上回った。

日本代表は3 P 成功を狙って富樫選手他 6 名のポイントガードを選出、そのためか平均身長で 192 cm と中国を 6 cm 下回るチーム編成となった。

中国は2 試合とも激しいディフェンスを展開して日本の攻撃を封鎖、そのためか肝心な 3 P 成功率は第 1 試合で 20%、第 2 試合で 25% となって得点が伸びなかった。

2 P シュートを含むフィールドゴール成功率でも、日本の第 1 試合 32%、第 2 試合 37% に比べ、中国は第 1 試合 45%、第 2 試合 66% とはるかに上回り、技術の高さを印象付けた。

中国は 100 点ゲームとなった第 2 試合で、3 P 58%、2 P 71% という驚異的なシュート成功率を収め、日本代表は掲げた粘り強いディフェンスを発揮できなかった。

もうひとつの柱とするハイスピードも、ポイントガードが多い割にはスピードが見られず、ボールを運ぶ際のターンオーバーも多発した。

ホーバス・ヘッドコーチが就任して日も浅いことから、思うようなバスケットの組み立てができず、すべての面で「これから」という言葉が当てはまる。

今回のワールドカップ予選で、NBA 選手の八村、渡辺がいない男子日本代表は、今一つチーム力が不足していると感じられた。

バスケットボールは基本的に得点を争うわけだから、得点力と守備力の両方が相手を上回らなくては勝機がない。

相手ディフェンスが厳しくてもスピードではねのけ、身長で劣る分をシュート力で補うチーム作りに向かって男子日本代表が邁進してくれることを切望する。

以上

FIBA 女子 アジアカップ 2021 結果

日本代表は大会史上初の5連覇

[編集部]

東京 2020 オリンピックが終わって間もなく、FIBA 女子ワールドカップ 2022 のアジアオセアニア地区予選となる「FIBA 女子アジアカップ 2021」が、ヨルダン・アンマンにおいて、現地時間で9月27日から10月4日まで開催された。

オリンピックで日本のバスケットボール史上初の銀メダルに輝いた女子代表は、休む間もなく下記のように新しいチーム編成でこの大会に出場。キャプテン高田をはじめ比較的高身長の高岡や宮澤、ポイントガードの町田らが抜け、新しいメンバーが加わった。

一般的に言えば、チームの主力を含むメンバーの半分以上が入れ替わった場合、短期間での強化はかなり困難を伴う。

しかしながら今回のアジアカップにおいて、日本代表は相変わらずの低身長ながら、オリンピックでアシスタントコーチを務めた恩塚ヘッドコーチのもと、その走力と3ポイントシュートの威力によって見事に「優勝」の二文字を持ち帰ってくれた。

日本代表チーム

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	恩塚 亨	東京医療保健大学
アシスタントコーチ	上野 経雄	(公財) 日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	鈴木 良和	(株) ERUTLUC

<「AKATSUKI FIVE」選手>

* 年齢・所属は2021年9月27日現在

NO	選手名	P	身長 cm	体重 kg	所 属
3	馬瓜 ステファニー	P F	182	78	トヨタ自動車アンテロープス
18	西岡 里紗	C	186	82	三菱電機コアラーズ
20	東藤 なな子	S G	174	65	トヨタ紡織サンシャインラビッツ
21	永田 萌絵	P G	174	65	トヨタ自動車アンテロープス
23	山本 麻衣	P G	165	58	トヨタ自動車アンテロープス
27	林 咲希	S G	173	67	E N E O S サンフラワーズ
32	宮崎 早織	P G	167	54	E N E O S サンフラワーズ
33	中田 珠未	P F	183	70	E N E O S サンフラワーズ
41	根本 葉瑠乃	S G	176	65	三菱電機コアラーズ
81	宮下 希保	S F	179	73	トヨタ自動車アンテロープス
88	赤穂 ひまわり	S F	185	72	デンソーアイリス
99	オコエ 桃仁花	P F	182	88	富士通レッドウェーブ
	平 均		177.2	69.75	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、PF パワーフォワード、C センター

予選リーグ結果

グループ A

順位	チーム（世界ランク）	日本	韓国	ニュージーランド	インド	勝	負
1	日本（8位）		○ 67-62	○ 62-50	○ 136-46	3	0
2	韓国（19位）	● 62-67		○ 85-69	○ 107-69	2	1
3	ニュージーランド（36位）	● 50-62	● 69-85		○ 109-49	1	2
4	インド（70位）	● 46-136	● 69-107	● 49-109		0	3

グループ B

順位	チーム（世界ランク）	中国	オーストラリア	チャイニーズ・タイペイ	フィリピン	勝	負
1	中国（7位）		○ 82-64	○ 124-50	○ 143-52	3	0
2	オーストラリア（3位）	● 64-82		○ 76-65	○ 120-56	2	1
3	チャイニーズ・タイペイ（34位）	● 50-124	● 65-76		○ 93-52	1	2
4	フィリピン（51位）	● 52-143	● 56-120	● 52-93		0	3

日本の主な戦績

予選リーグでの日本は、グループ A で韓国に対し接戦をものにして 1 位で決勝トーナメントに進出した。

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	24	13	6	24	67
韓国	18	18	12	14	62

決勝トーナメント（勝ち上がり表は後記）では、準決勝のオーストラリア戦、決勝の中国戦で、10 センチ近くの身長差にも関わらず、東京オリンピック同様のゲーム展開によって、リーグ戦の韓国戦同様、いずれも後半に逆転するという粘り勝ちを収めた。

10月2日 準決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	20	11	22	14	67
オーストラリア	12	24	19	10	65

10月3日 決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	19	17	16	26	78
中国	21	18	18	16	73

決勝戦は、準決勝のオーストラリア戦を 67-65 の接戦で制した日本代表が、韓国に 93-69 で勝利した中国と 5 連覇をかけた戦い。

特に決勝戦で対戦した世界ランクが一つ上の中国は、200cm と 205cm のセンタープレイヤーに加え、インサイド陣はいずれも 185cm 以上の高身長で、平均身長 177cm の日本代表よりはるかに大型チーム、予選リーグにおいてもワンサイドゲームで勝ち上がってきた強豪チーム。

準決勝で大型チームのオーストラリアに苦しめられた日本代表が、いかにしてさらなる大型チームの中国に対応するか注目されたが、ふたを開けてみれば新たなポイントガードに座った宮崎の大奮闘によって中国を制した。

第1クォーター 序盤シュートが決まらない日本、最初の得点は宮崎のドライブからレイアップシュートが決まり 2-6。7 分まで宮崎が奮闘し 5 本のシュートを決め 11-16。林のフリースロー 2 本を皮切りにオコエ、山本がシュートを決め 19-21 で終了。

第2クォーター オコエ、山本がシュートを決め 25-21 と逆転。両チーム点の取り合い後、4 分 40 秒過ぎに東藤のスチールから速攻で宮下がシュートを決め 34-26。その後はオコエのシュート（7 分過 12 秒）のみの 3 点のビハインド（36-39）で前半を終了。

第3クォーター 宮崎の 3 連続シュートで 43-42 と逆転。オコエのシュート 2 本とステファニーのフリースロー 2 本でリードを広げる（49-42）。この後シュートが決まらず中国に逆転される。残り 18 秒でオコエ 3 P シュートを決め 52-54 と詰め寄るもブザービーターで 3 P シュートを決められ、52-57 で終了。

第4クォーター 開始早々シュートを決められ 52-59 となったがステファニーのフリースロー&シュート、オコエ、林のシュートが連続して決まり 64-59 と逆転。中国にシュートを決められるが中田が決め返して 66-61。中国に連続して 2 本シュートを決められ 66-66 の同点となる。ステファニーのシュートでリードするも 3 P シュートを決められて 68-69。宮崎、オコエのシュートで逆転（72-69）。中国も粘り、連続して 2 本シュートを決められ 72-73 と再逆転される。ペイントエリアで宮崎からのバウンズパスを受けたオコエがシュートを決め 74-73 と再逆転。残り 40 秒の中国の攻撃を守り、ファールゲームにされるも得たフリースローを宮崎がきっちり決めきり、78-73 で 5 連覇を達成。

大会順位

優勝：日本（5 連覇）
準決勝：中国
第3位：オーストラリア
第4位：韓国

第5位：ニュージーランド
第6位：台湾
第7位：フィリッピン
第8位：インド

オールスター5

宮崎早織

赤穂ひまわり

Yueru Li (中国)

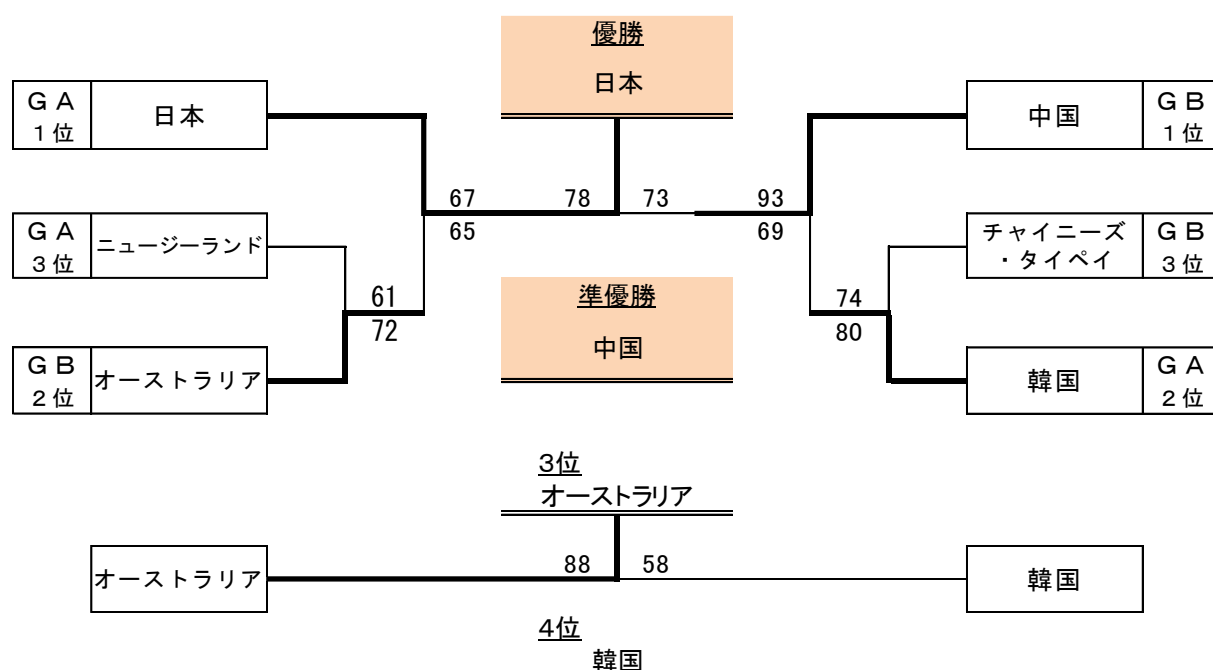
Sijing Huang (中国)

Sami Whitcomb (オーストラリア)

MVP

赤穂ひまわり

決勝トーナメント結果



FIBA 女子ワールドカップ 2022 出場は上位4チーム

この FIBA 女子アジアカップ 2021 の結果、女子日本代表を含む上位4チームは 2022 年 9 月 22 日ー10 月 1 日にオーストラリアで開催される「FIBA 女子ワールドカップ 2022」の予選トーナメント（開催地不詳・2022 年 2 月 10 日ー13 日）への出場権を獲得した。

以上

FIBA 女子ワールドカップ 2022 予選

日本代表はグループC

[編集部]

「FIBA 女子ワールドカップ 2022」予選は 2022 年 2 月 10 日～13 日に開催されるが、各 2021 年地区大会の結果から下記の 16 チームが出場権を得ていた。

FIBA 女子アフリカ選手権大会 (2 チーム)	マリ、ナイジェリア
FIBA 女子アメリカカップ (4 チーム)	ブラジル、カナダ、プエルトリコ、USA
FIBA 女子アジアカップ (4 チーム)	オーストラリア、中国、 日本 、韓国
FIBA ヨーロッパ選手権大会 (6 チーム)	ベラルーシ、ベルギー、フランス、ロシア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア

本予選では、上記 16 チームが A～D の 4 グループに分けられて対戦し、各グループから成績上位の 3 チームが本戦に出場できる。本戦への出場チームはオリンピック同様に 12 チームで、開催国のオーストラリアとオリンピック優勝国のアメリカには優先出場権が与えられる。

組み合わせ

下段は2021年8月9日の世界ランク

開催地

グループ A	オーストラリア	韓国	セルビア	ブラジル	<u>セルビア</u>
	3 位	19位	9 位	14位	ベオグラード
グループ B	フランス	中国	ナイジェリア	マリ	<u>セルビア</u>
	5 位	7 位	16位	41位	ベオグラード
グループ C	ボスニア・ヘルツェゴビナ	日本	カナダ	ベラルーシ	日本
	27位	8 位	4 位	11位	大阪
グループ D	ロシア	アメリカ	プエルトリコ	ベルギー	<u>アメリカ</u>
	12位	1 位	17位	6 位	ワシントンD.C.

開催期間 2022 年 2 月 10 日～13 日

ワールドカップ出場権の獲得

グループ A は、開催国オーストラリアを除く成績上位 2 チーム

グループ B～D それぞれは、成績上位 3 チーム。

ワールドカップ本大会の開催期日と開催地

本大会は 2022 年 9 月 22 日 (木) から 10 月 1 日 (土) まで、シドニー (オーストラリア) で開催される。

以上

第 97 回天皇杯・第 88 回皇后杯ともに最終ラウンドへ

[編集部]

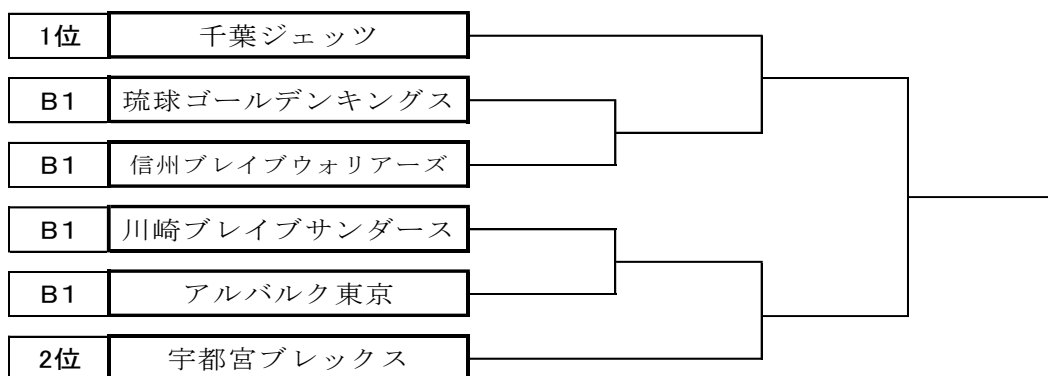
2021 年度の第 97 回天皇杯・第 88 回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会は、新型コロナウイルス禍により、規模が縮小され、男女とも各都道府県代表が争う 1 次ラウンドを廃止し、2 次ラウンドから実施された。

第 97 回天皇杯

男子は、3 次ラウンドから B 1 クラブチームが前年成績により順次参加し、4 次ラウンドを終わって、下記日程による決勝トーナメントへ進む。

決勝トーナメント

1 月 5 日 2 月 9 日 3 月 12 日

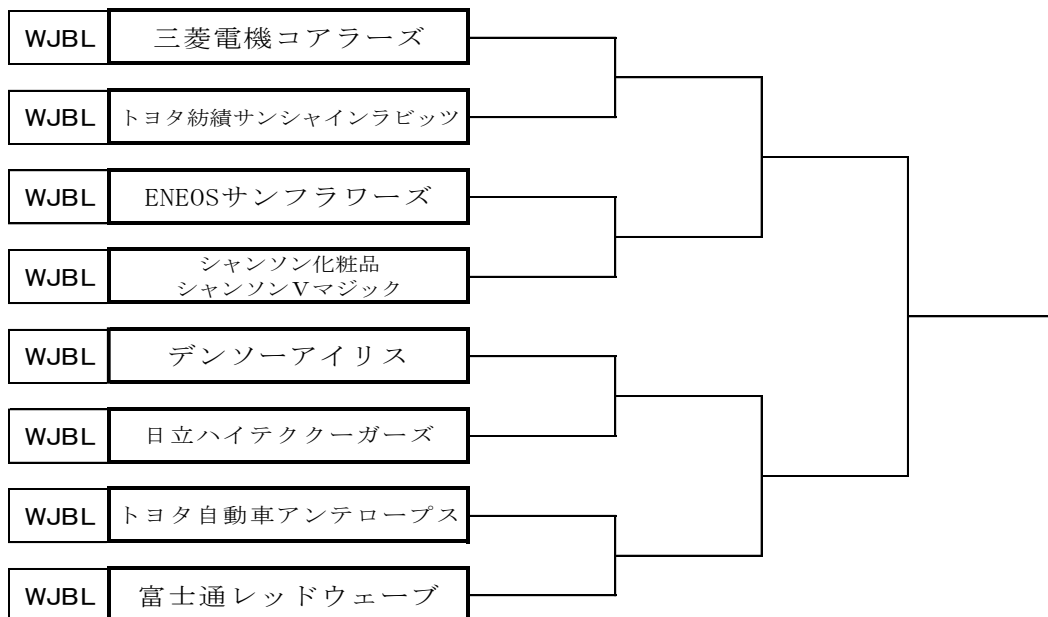


第 88 回皇后杯

女子は、2 次ラウンドで、ブロック代表 9 チームと W リーグ 13 チームでトーナメントを戦い、代々木第二体育館における下記日程のファイナルラウンドへ進む。

ファイナルラウンド

12 月 15・16 日 12 月 18 日 12 月 19 日



以上

Bリーグ情報

[編集部]

10月に開幕した2021～2022Bリーグは、B1が東・西地区それぞれ11クラブずつ合計22クラブによって、現在全国各地でリーグ戦が行われている。

昨シーズンコロナ禍によって変則的な日程になって、完璧な順位がつけられなかったことから、今シーズンは22クラブと多数のクラブがB1で戦う形となった。

また、プロリーグ特有の選手移籍も多くみられ、日本を代表する主力選手の移籍が目立った。宇都宮からA東京へ移籍したロシター、川崎から島根へ移籍した辻、三河から島根へ移籍した金丸、A東京から島根へ移籍した安藤の各選手などがその代表的例である。

リーグ戦が始まって間もないため、現時点で各クラブの優劣を判断するわけにはいらないが、下記の通り上位クラブと下位クラブとの戦力格差が顕著になっていることが特徴としてうかがえる。

11月20日現在成績表

東地区

順位	クラブ名	勝数	負数	勝率%
1	川崎ブレイブサンダース	11	3	78.6
2	千葉ジェッツ	10	4	71.4
3	アルバルク東京	10	4	71.4
4	サンロッカーズ渋谷	10	4	71.4
5	宇都宮ブレイクス	9	5	64.3
6	秋田ノーザンハピネッツ	7	7	50.0
7	群馬クレインサンダーズ	6	8	42.9
8	横浜ビー・コルセアーズ	6	8	42.9
9	レバンガ北海道	5	9	35.7
10	新潟アルビレックスBB	2	12	14.3
11	茨城ロボッツ	2	12	14.3

西地区

順位	クラブ名	勝数	負数	勝率%
1	琉球ゴールデンキングス	11	3	78.6
2	島根スサノオマジック	10	4	71.4
3	信州ブレイブウォリアーズ	9	5	64.3
4	シーホース三河	9	5	64.3
5	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	8	6	57.1
6	広島ドラゴンフライズ	8	6	57.1
7	大阪エベッサ	6	8	42.9
8	滋賀レイクスターズ	6	8	42.9
9	富山グラウジーズ	4	10	28.6
10	三遠ネオフェニックス	3	11	14.3
11	京都ハンナリーズ	2	12	14.3

B 1 リーグプレイヤー出身大学と人数

先日の BSTV 番組「熱血バスケ」に東海大学ヘッドコーチの陸川氏が出演した。その中で東海大学出身の B リーグプレイヤーが B 1 だけで 32 名いることが発表された。

そのことにヒント得て、B 1 リーグで活躍している日本人プレイヤーの出身大学を調べてみたところ、多くの大学からプロ選手としての B 1 プレイヤーが育っていることがわかった。

今後、大学バスケットボール部で高い技術を習得し、将来日本のバスケットボール界の一翼を担う選手が数多く育つことを望みたい。

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
東海大学	32	東海大九州	3	新潟工業短期大学	1
青山学院大学	20	天理大学	3	新潟経営大学	1
筑波大学	13	国士舘大学	2	富士大学	1
日本大学	11	神奈川大学	2	名古屋学院大学	1
明治大学	10	愛知学泉大学	2	近畿大学	1
大東文化大学	8	関西学院大学	2	京都産業大学	1
拓殖大学	7	駒沢大学	2	大阪教育大学	1
専修大学	7	慶應義塾大学	1	関西大学	1
中央大学	6	江戸川大学	1	芦屋大学	1
大阪学院大学	5	法政大学	1	九州共立大学	1
日本体育大学	4	國學院大學	1		
早稲田大学	4	関東学院大学	1		
白鵬大学	4	上武大学	1		

B 1 U 1 8 リーグ発足

このほど B リーグでは、将来プロ選手として B リーグで活躍できる人材を育成する目標をもって、B リーグ U 1 8 リーグを立ち上げた。

参加クラブは、現在 B 1 に所属する北海道、A 東京、S R 渋谷、横浜、名古屋、B 2 福岡の 6 クラブで、対象者は 18 歳以下の選手。

当面参加クラブによる U 1 8 エリート 6 というリーグ戦を行い、B 1 リーグのエキシビジョンマッチにも登場する予定。

さらには世界への挑戦も視野に入れ、B リーグから U 1 8 インターナショナルカップへの出場を目指す。こうして B リーグ育成組織に所属する若い選手の成長を多くのファンと共有することによって、年少世代から世界を目標とする選手を多く育てたいという。

高レベルの技術習得に、高校、大学での育成と経験も必要ではあろうが、B リーグクラブ自らが若手育成を目指して取り組む姿勢はそれなりに価値がありそうだ。

以上

東京 2020 オリンピックのバスケットボール

開幕まで「日本一丸」のストーリー

[普及部]

スポーツはどの競技でも強化の過程は異なり、指導者の資質も異なる。

ソフトボールは全選手が日本リーグの実業団チームに所属しているのに対し、野球は全員がプロ選手。ソフトボールは、2016年に東京オリンピックの開催が正式に決まると頻繁に合宿を重ね、2015年から主力になる選手の世代を「ターゲットエイジ」と定め、強化を図った。一方、野球は、2017年に稲葉監督が就任してから、プロ野球（国内で活躍している・年齢制限はない）のシーズン後に行われる国際大会や春の強化試合のみが数少ない全選手の集まる機会だった。

男子サッカーは全員「Jリーグ」と「海外リーグ」で活躍しているプロ選手で構成、但し年齢の制限がある。女子サッカーは「なでしこリーグ」で活躍している選手と海外リーグで活躍している選手でチームを構成。男女ともに代表チームの全体練習・試合の調整に苦労している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

東京 2020 オリンピックのバスケットボール日本代表チームは、いままでの代表チームと異なっていくつかの特徴（多様性と可能性）がある。

男子代表チームは、Bリーグ選手、NBAなど海外で活躍しているプロ選手、および帰化選手などで構成され多様化されており、可能性としてナショナルチームが一体化し、確実に成長してきたと考えられる。

女子代表チームは、全員Wリーグで活躍している選手で、高校時代から選手同士が各々のプレースタイルも性格も良く知っていて、アンダーカテゴリー時代から成長した世代のチームワークもある。Wリーグは、日本人選手（帰化選手を含む）のみで、外国籍選手はいない。選手の個性を生かし、成長をささえる指導者の存在もあり、国際大会などで海外チームに対等に対抗する強さと可能性をもっている。

東京 2020 オリンピックで好成績を収めることができた競技の要因の一つに、コロナ禍の中、来日した海外チームが調整・コンディションづくりに苦労し、日本チームに「地の利」があったことも事実であろう。

はじめに

東京 2020 オリンピック開幕まで 1 カ月、男・女ともにオリンピックに参加するのは、1976 年モントリオールオリンピック出場以来 45 年ぶりとなる。1 年 4 カ月ぶりの国際試合を行い、代表監督はこの時期をオリンピックに向けて課題を解決する機会ととらえ、チームとしていくつかの施策を試行する過程を新聞の報道記事から見るができる。

- (1) 2021 年 6 月/29 日 オリンピック開幕まで 1 カ月
国際強化試合に臨むバスケットボール男女代表ヘッドコーチの意気込み

＜男子代表＞ フリオ・ラマス ヘッドコーチ 八村選手・渡辺選手の次が鍵

21年ぶりにオリンピック出場を果たしたが、2019年ワールドカップで5戦全敗し、八村選手、渡辺選手もメンバーにいたが勝利の気配すら感じられなかった。課題は明確で、他の選手たちが柱となる2人にボールを預けがちで、相手が2人を徹底的にマークすると手も足も出なかった。比江島選手は「2人は必ずマークされる。その時に自分が仕掛けることを第一の選択肢にしないといけない」と語っている。また前年Bリーグ年間優秀選手の金丸選手も新たな得点源として期待され、強化試合を重ね、実戦の中で一気に関係を深める方針。

2017年から指揮を執るラマス ヘッドコーチは「オリンピックで運よく勝てるということではなく、日本は完璧な試合をしないと勝てない。1日1日の挑戦を重ね、周到な準備をして臨めるようにしていきたい」とこれからの1カ月を語っている。

＜女子代表＞ トム・ホーバス ヘッドコーチ

すでに戦術は確立し、あとはポイントガード（PG）

新型コロナウイルスの影響で1年延期になって女子代表は大きな影響を受けた。長年、日本代表の主力として支えてきた大崎佑圭と吉田亜沙美が引退し、渡嘉敷来夢選手も昨年右ひざ前十字靭帯を断裂してオリンピックを断念した。2018年ワールドカップで先発していた司令塔の本橋選手、宮沢選手も故障明けの状態。

「最も悩むのはポイントガード（PG）」とホーバス ヘッドコーチは明かした。強化試合で安間選手、三好選手などを含む5人のPGを起用した。チームの骨格、プレイスタイルは確立しているので、あとは残った選手でどうすりあわせていくか。

ホーバス ヘッドコーチは「バスケットは、アジャスト（相手や環境に適応）するスポーツ。選手のプレーや性格をたくさん勉強して、オリンピックまで準備し続けたい」。この段階で、ホーバス ヘッドコーチは、すでに試合の戦術を確立し、あとはPGの起用をどのようにするか強化試合で試すことを考えている。

（2） 1年4カ月ぶりの国際強化試合に臨む （前半戦）

6月11日 ＜女子代表＞ 国際強化試合 対ポルトガル戦勝利

日本代表（世界ランキング10位）はポルトガル（同48位）を69-47で下した。代表の公式戦は、昨年2月にベルギーで開催された五輪予選大会以来1年4カ月ぶり、続いて強化試合が予定されており、急ピッチで仕上げるという。

6月13日 ＜女子代表＞ 国際強化試合 日本第2戦も快勝

日本代表は、ポルトガルとの第2戦を68-43で快勝した。守備も好調のオコエ（富士通）がチーム最多タイの12得点。全て3点シュートによるもので、「このチームで一番求められていること。表現できてよかった」と笑みをこぼした。「自分を信じて、この好調を継続させたい」

6月14日 ＜女子代表＞ 国際強化試合 対ポルトガル戦は3連勝

日本代表は、ポルトガルとの第3戦に67-58で勝った。日本は、激しい相手守備に苦しみながらもテンポの良い関係でかわし、1年4カ月ぶりの国際試合を3連勝で終えた。リオ五輪を知る三好（トヨタ自動車）が、勝負強い3点シュートで引っ張った。得意の3点シュートは、3連戦で計9本成功率も53%と高い確率を示した。

2大会連続の五輪出場に向け、「短い時間で結果を残すことが大切。自信になった」と手応えをにじませた。

6月17日 <男子代表> アジアカップ予選 中国に敗れて日本は1勝1敗

新型コロナウイルスの影響で中断されていたB組がフィリピンで再開され、日本は、中国（世界ランキング29位）に57-66で敗れ、通算成績は1勝1敗となった。日本にとって国際試合は1年4カ月ぶりで、今回の代表には八村選手（ウイザーズ）ら海外組は参加していない。日本は、18日に台湾、19日に中国との第2戦を行う予定。同じB組の マレーシアは出場を辞退した。格上の中国に序盤から差をつけられる苦しい展開のなか、金丸選手がチーム最多タイの12得点。リバウンドもインサイド陣に続く5本と体を張った。「もっと出来る。自分が空いたら3点シュートを積極的に放ってきたい」と語る。

6月23日 バスケット3人制 女子開催国枠なしだったが、予選激闘もぎとった

5月にオーストラリアで開かれたバスケットボール3人制女子の五輪予選。勝てば出場権獲得という3位決定戦で、日本はスペインと激闘を繰り広げ、残り7秒で同点に追いつき、延長戦へ。決勝点をあげたのは馬瓜ステファニー、倒れこみながらレイアップシュートを決めた。2019年の3月時点で、国際バスケットボール連盟は、日本の5人制、3人制の男女それぞれに条件付きで開催国の枠を認めていた。その後3人制には国際オリンピック委員会の承認が得られず、11月になって、3人制は世界ランクで女子より上位だった男子のみ開催国に出場権が与えられていた。

6月24日 <男子代表> 国際強化試合 イランに快勝、4人が2桁得点

日本代表は、イラン代表（世界ランキング23位）を85-57で下した。安藤周（ダイヤモンドD）、金丸選手の両シューターを含む4選手が2桁得点。

6月26日 <男子代表> 国際強化試合 2試合目は、イランに敗れる

日本は、前半、3点シュートが1本も決まらずリードを許した。後半はドライブからの連係を駆使して一時が逆転に成功したが、勝負どころでミスが出た。67-72で敗退したが、ラマス監督は、「攻守でチームに良いエネルギーを与えた」と好評した。

6月28日 <男子代表> 国際強化試合 最終戦 イランに快勝通算2勝1敗

第2戦で計5本にとどまった3点シュートは、この日は7人が計15本成功して76-50。張本がのびのびとしたプレーでチーム最多の15得点。2019年はワールドカップ直前に代表選手になった経験を持つ。それでも「強化試合だって限られた選手しか経験できない。確実に将来の自分の力になる」と充実感をにじませた。

(3) 男女日本代表選手を発表

7月2日 <女子代表> オリンピック日本代表12人 内定発表

2016年リオオリンピック経験者は6人、2018年ワールドカップの経験者は5人。高さのある選手より小さくてもスピードと得点力を持つ選手を重視。平均身長は175.6cm。

7月3日 バスケット3人制 オリンピック代表 発表

男子は、国内第一人者で経験豊富な落合を軸に正確なシュート力のある20才の富永らが選ばれた。女子は、オリンピック予選で出場枠を獲得した同じメンバー。

7月7日 <男子代表> オリンピック日本代表12人発表

米プロNBAの八村塁と渡辺雄太、今季オーストラリアNBLでリーグ優勝に貢献した馬場雄大を含め、2019年ワールドカップの経験者6人が含まれた。

(4) オリンピックメンバーで臨む 国際強化試合（後半戦・オリンピック前哨戦）

7月8日 <男子代表> 国際強化試合 格上ハンガリーに快勝

男子日本代表は、ハンガリー代表（世界ランキング 38 位）に 79-58 で快勝した。五輪内定 12 選手が発表されてから初の強化試合で、渡辺雄太は、2019 年ワールドカップ以来、1 年 10 カ月ぶりの代表戦となった。「意識的に自分がリズムを生み出さないといけないと思っていた」。26 才主将としてベンチにいる時間も周囲を鼓舞し続けた。「もう若くない。リーダーとしても成長した姿を見せられたら」と語った。

7月10日 <男子代表> 国際強化試合 強豪 ベルギーに競り負ける

男子の日本代表は、ベルギー代表（世界ランキング 37 位）に 70-73 で競り負けた。五輪本大会への出場権を持たない相手だが、序盤はスピード感のある連係に圧倒された。序盤のミスが響き先発した比江島は「自分も試合の頭にミスしてしまった」と、16 点ビハインドを背負った第 1 クォーターを悔やんだ。「本番だったら追いつけなかったと思う。今日を糧に、修正したい」

7月16日 <女子代表> 国際強化試合 日本、強豪 ベルギーに勝利

女子の日本代表は、ベルギー代表（世界ランキング 6 位）に 84-76 で競り勝った。平均身長 6.7 cm 劣るなか、序盤からオールコートプレスを仕掛けてスピード勝負に持ち込み 2018 年ワールドカップ 3 強を倒した。「米国の 1 強以外は実質横並び」と日本のホーバス ヘッドコーチは、女子の世界情勢をそう見ている。鍵は、攻守の切り替え。それを十分理解している司令塔の町田は、序盤から積極的に前へ前へとパスを送り続けた。町田は「紅白戦だと効果が見えにくかったけど、今日の勝利が自信になった。五輪本番まで突き詰めたい」と力強く語る。

7月17日 <男子代表> 国際強化試合 主力が合流し ベルギーに快勝

男子の日本代表は、ベルギー代表に 87-59 で快勝した NBA の八村と豪州 NBL の馬場が合流し、初めて 12 選手がそろった状態で臨んだ試合。八村は「まだまだ課題はある。しっかり克服してオリンピックに臨みたい」

7月18日 <女子代表> 国際強化試合 プエルトリコに快勝

日本女子代表チームは、プエルトリコに 94-59 で快勝した。主力の 2 人「戻ってきた」試合後ホーバス ヘッドコーチの表情には、心から安堵がにじんでいた。2019 年アジアカップ最優秀選手 PG 本橋とリオ五輪に出場した SF 宮沢。二人とも「らしさ」が発揮された。本橋選手は「自分でも 80% ぐらい戻ったと思う」。目に力強さが宿っていた。メダル獲得に不可欠なピースがそろった。後はどう組み立てるか。ホーバスは「準備してきたシステムに自信がある。五輪の舞台で世界に披露するのが楽しみ」と語る。

7月19日 オリンピック男子各チームに NBA 選手がずらりオリンピックは甘くない

東京オリンピックに出場するチームは、12 チーム。全選手を NBA 選手で固めた米国だけでなく、ほとんどのチームが NBA 選手を擁し、日本が 1 次リーグで対戦するチームも例外でない。初戦で対戦するスペインには身長 191 cm の PG リッキー・ルビオがいる。スペインが優勝した 2019 年 W 杯では、決勝戦の最優秀選手（MVP）、大会ベスト 5、大会 MVP と各賞をすべて獲得した選手。アルゼンチンの司令塔は、ファクンド・カンパッソが務める。身長 178 cm と小柄ながら NBA 入りした実力を持つ。初出場のスロベニアには、2019 年 NBA 新人王ルカ・ドンチッチ、得点、アシスト、リバウンドと全方向に活躍するパワフルな選手。渡辺雄太、八村と 2 人の NBA 選手で華やかに見える日本チームも世界から見ればスタンダードに過ぎない。

7月19日 <男子代表> 国際強化試合 確実に成長している、でも「過信しない」

日本男子は、東京五輪に出場するフランス代表（世界ランキング7位）に81-75で競り勝った。米プロNBA選手5人を擁する強豪に対し、日本は、渡辺雄太、八村塁の両NBA選手にボールを集め前半からリードし、固い守備で逃げ切った。確実に成長している、でも「過信しない」「自信にして良い部分と過信してはいけない部分、そのバランスをしっかりとしないといけない」。主将を務める渡辺雄太は、試合後も冷静だった。ロッカールームでラマス ヘッドコーチが盛んに選手たちを褒めても、当人たちは淡々としていたという。「正直フランスは(移動などで)状態が良くなかったと思う」

最後に

男子代表チームについて、国際強化試合に臨むラマス ヘッドコーチは、「八村・渡辺の次が鍵」、「オリンピックで運よく勝てるということはなく日本は完ぺきな試合をしないと勝てない。1日1日周到な準備をして臨めるようにしたい」などと語っている。

イランとの試合は2勝1敗。男子日本代表にNBAの八村、渡辺、オーストラリアNBLの馬場選手に加え、2019年ワールドカップ経験者6人プラス3名の12名を選出、格上のハンガリーに快勝した。強豪ベルギーにも1戦目は競り負けたが、2戦目は主力が合流し、快勝することができた。その後、対戦したフランスに競り勝ったが、選手は、確実に進化はしているが過信はできないとチームを引き締めている。

オリンピックで対戦するスペイン、アルゼンチン、スロベニアの各チームには、NBA選手が多くそろっていて強豪だ。

女子代表チームについて、ホーバス ヘッドコーチは「最も悩むのは、ポイントガード。チームの骨格、プレースタイルは確立している。あとは残った選手でどうすり合わせていくかだ」と強化試合への期待を語っている。

強化試合を通じて、確立した戦術の下に、選ばれたPGと選手同士のすり合わせの度合いをさらに高めた。手ごたえとして司令塔の町田選手は、アメリカの一強以外は実質横並びであると語り、確立した戦術の実践が勝利につながると自信を深めた。

男子代表は、残念ながら1次リーグで敗退した。しかし、女子代表は、決勝でアメリカチームと対戦し敗退したが、見事に銀メダルを獲得した。

多くの多様性を備えた男女日本代表バスケットボールチームは、さらに成長する可能性を残して東京2020オリンピックを終了した。今後の飛躍に期待したい。

以上

リングに向かって“跳べ”10年後の子供達

ミニバスチーム「HASUNI」

[普及部]

今回取材した蓮根二小のミニバスチームは板橋区で活躍が“目覚ましい”チームであり、ヘッドコーチの深川朗子さんにチームの生い立ちと抱負を語っていただいた、



チーム名：“HASUNI”、
板橋区立蓮根第二小学を意味する

H/C 深川さん

蓮根二小バスケット部の生い立ち

- 2005年： 板橋区立蓮根第二小学校の“寺子屋”として当時の先生が指導で発足
- 2010年： 学校の先生が転校し、保護者の深川さんが新しいチーム指導者となる
- 2011年： 深川H/C、東京都ミニバス D級審判ライセンス取得
- 2017年： 深川H/C、JBA、C級コーチライセンス取得
- 2018年： 深川H/C、東京都バスケットボール協会の技術委員、U12強化委員
- 2020年： コロナ渦で活動の寺子屋活動に制限が出来たため有志を募り、新たに名称を（HASUNI）としたチームを結成、区の交流戦に参加

HASUNI チームの戦歴

- 2009年： 板橋区民大会男子優勝
- 2015年： 板橋区民大会男子準優勝
- 2016年： 板橋区民大会男子、女子共第三位（銅メダル）
- 2017年： 板橋区民大会男子準優勝
- 2020年： 板橋区ミニバス交流選、男子優勝



チームフラッグ

HASUNI チームの明日への目標

- * バスケットボールが大好きで、次のカテゴリーに進んでくれる様に、又団体行動を通して、礼節を学び、仲間を大切にする“心”を育み、内発的動機を大事にできるような仕掛け作りを心がけて指導したい、

HASUNI チームのスタッフ

氏名	担当	氏名	担当
深川 朗子	H/C	東口 知充	コーチ
山本 恒夫	A/C	山口 豊	コーチ
小見 洋介	コーチ	畔 柳零	コーチ
古川 充人	コーチ	石垣 俊	コーチ
古澤 英機	コーチ	斎藤 成幸	コーチ
田中 直紀	コーチ		



スタッフ一同

取材後記

蓮根二ミニバスケット部は、25 名程度のメンバーで構成されているが、小学 3 年生を中心とした低学年が約半数を占めている。

その練習を見学した感想では、練習プランを組み立てて、レベルに合った基礎の身体つくりと動きの速さを取り入れたものであった。

＊ゲームも含めて、ボールのハンドリング、
片手別に、種類の違うボールを使いハンドリング、
コーチが“風船玉位の大きさの”柔らかいボールで速い球を投げつけて“キャッチ”
の練習（ボールの怖さを和らげる練習）、
全力でルーズボールを体張り合って取り合う、等
速さと、判断力を混ぜ合わせたゲーム方式の練習等が印象的であった。

2020 年東京オリンピック・パラリンピックで海外の選手から教わった、体の使い方、速さ、全方位を見ての判断力等、これからのバスケットボールに求められる課題を含めた練習だと感じられた。

(取材 鈴木 承二)

高校籠球ふるさと記（宮城県編）

[事務局]

宮城県で本格的にバスケットが導入されたのは戦前の1924年頃、東北帝大や宮城師範の教師等により県にもたらされたとされている。昭和時代に入り、各種の全国大会が開催されるのに対応し、県内でのより一層の普及・発展を願い、1934年には東北帝大の石田文次郎教授を初代会長に宮城県籠球協会が結成された。多くの小学校にバスケットゴールが設置され、東北帝大の学生を始め、高専、中等学校、小学校、クラブとチーム数も急速に増加、チーム同士が交流を持ちながら、技術を高めていった。

以上が戦前の動向であるが、戦後の1946年には、東北大の那須省三郎教授を会長に宮城県籠球協会が再発足した。その後、日本籠球協会に加盟し、日本籠球協会宮城県支部となった。一般男子7チーム、一般女子4チーム、中学男子6チーム、中学女子6チームでスタートしたが、徐々にチーム数が増えていき、48年には第一回県民大会が開催された。49年には日本籠球協会が日本バスケットボール協会と改称され、県協会も宮城県バスケットボール協会に改称された。

このような歴史と伝統を誇る宮城県のバスケットであるが、本誌では1948年（昭和23年）から1988年（昭和63年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の審判員や協会関係者にも焦点を当て、宮城県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には宮城県バスケットボール協会創立75周年記念誌「飛翔の軌跡」の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、学校名は原則略称）



先ずは、男子であるが、大きくは4つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948年—60年）

仙台商業の強さが目立ち、それに仙台一、仙台二が次いでいた。インターハイには仙台商業が6回、仙台一が3回、仙台二が2回、古川、仙台育英、市立仙台が各1回出場している。小牛田農林の54年の東北選手権での優勝は特筆に値する。

この時期の著名選手としては、菅原定夫（小牛田農林 55—明治大—日本鋼管）がいる。この時期、活躍した選手では、今野（仙台一 54—東北学院大—県協会理事長）、高橋（市立仙台 60—明治大）、菊池（仙台一 60—東大）、高橋（東北 61—専修大）らがいる。

第二期（1961年—70年）

仙台一の強さが目立ち、それに仙台二、仙台三が次いでいた。

インターハイには仙台一が6回、仙台二と仙台三が各2回出場している。

仙台一が64年の新潟国体に出場、同年開催のNHK杯東北3県大会で優勝し、68年の広島インターハイでは第4位になっている。仙台二が63年の東北選手権で優勝してい

る。いずれも特筆に値する。

この時期の著名選手としては、小野安壮（古川工業 63－日体大－聖和学園－宮城県協会会長）、大槻哲也（仙台一 70－東京教育大－日本鉱業）がいる。

この時期、活躍した選手では、岩城（仙台一 62－東京教育大－熊谷組）、安達（市立仙台 64－日体大）、佐藤（眞）（仙台二 64－東北大）、佐藤（宣）（仙台二 65－慶応大－第一生命）、阿部（仙台一 65－東北大）、高橋（仙台一 66－東京教育大）、佐藤（冨）（仙台一 67－慶応大－東京海上）、安積（仙台三 68－東京経済大）、木川田（仙台三 68－東京経済大）、大江（仙台三 68－東京教育大）、渡辺（仙台三 69－東京経済大）、黒沢（仙台一 70－上智大）、佐々木（桂）（古川 71－東京教育大－東北学院大教員－東北学連理事長、宮城県協会理事長）、佐藤（仙台三 71－学習院大）らがいる。

第三期（1971 年－80 年）

前半は、仙台育英の活躍が目立ち、後半は仙台一、仙台二が競い合っていた。

インターハイには、仙台育英と仙台一が各 3 回、仙台二と古川が各 2 回出場している。

この時期、活躍した選手では、佐々木（栄）（古川 72－早稲田大－豊田通商）、佐藤（崇）（仙台三 72－早稲田大－新日鉄）、佐藤（晋）（市立仙台 72－大商大－大和証券）、南波（市立仙台 72－大商大－東芝）、佐藤（吏）（仙台育英 74－大商大－三菱電機）、阿部（仙台三 74－立教大）、安倍（仙台育英 75－東京経済大）、宮沢（仙台育英 75－国士館大）、大槻（悦）（仙台一 76－慶応大－三井生命）、千葉（古川 78－東北学院大－三菱電機）、安東（古川 81－専修大）らがいる。

第四期（1981 年－88 年）

前半は、多賀城、東北工大電子工業、仙台一、仙台二、市立仙台が競い合っていたが、後半からは、市立仙台の台頭が目立ってきた。

インターハイには、市立仙台が 4 回、多賀城、東北工大電子工業、仙台一、仙台二が各 1 回ずつ出場している。仙台二の 88 年神戸開催の選抜大会での第 4 位は特筆に値する。因みに、平成時代に入ってから市の市立仙台の活躍は目覚ましく、インターハイでは 1996 年から 2000 年まで 5 年続けてベスト 4 入り（1998 年には準優勝）、選抜大会では、1991 年から 2000 年までの間に、8 回、ベスト 4 入りし、1999 年と 2000 年には連続優勝を飾っている。

この時期の著名選手としては、阿部 理（仙台二 89－慶応大－日本鋼管）がいる。

この時期、活躍した選手では、島崎（角田 83－筑波大－帝京大監督、関東女子大学連盟理事長）、岩野（仙台二 83－芝浦工大）、渡辺（仙台二 84－慶応大）、天江（仙台商業 86－日体大－聖ウルスラ学院英智高教諭－県協会理事）、長沢（市立仙台 88－拓殖大）、中村（仙台二 89－東大）らがいる。

この間、宮城県出身で他県高校に進学した著名選手としては安達 康（能代工業 86－日体大－ジャパンエナジー：87 ユニバーシアード日本代表、93 アジア選手権日本代表－利府高、古川工業教諭）がいる。

因みに、宮城県出身で平成年代に活躍した著名選手としては、折腹 祐樹（登米 92－拓殖大－東芝）、柏倉 秀徳（市立仙台 99－筑波大－三菱電機）、志村 雄彦（市立仙台 2001－慶応大－仙台 89ers－同社長）らがいる。

次に女子であるが、大きくは4つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948年—58年）

古川女子と石巻女子の強さが目立っていた。インターハイには古川女子が3回、石巻女子が2回、涌谷、宮城第一女子、宮城第二女子、尚絅女学院、常盤木学園、聖和学園吉田が1回ずつ出場している。石巻女子の55年の東北選手権での優勝は特筆に値する。この時期、活躍した選手では、伊藤（石巻女子—北芝電機）、阿部（石巻女子—三井生命）、高橋、保理（いずれも宮城第一女子—日立那珂）、佐藤、高橋（いずれも聖和学園吉田—北芝電機）、本田（聖和学園吉田—日立那珂）らがいる。

第二期（1959年—65年）

聖和学園吉田が圧倒的な強さを誇り、7年連続インターハイに出場。63年の東北選手権での優勝は特筆に値する。この時期、活躍した選手では、佐々木（聖和学園吉田 62—日体大）、関（宮城第三女子 63—日体大）、矢沢（石巻女子 63—杉野女子短大）、大友（伊達—日体大）らがいる。

第三期（1966年—75年）

聖和学園吉田に加え、古川女子も頑張っていた。インターハイには、聖和学園吉田が5回、古川女子が2回、常盤木学園、仙台女子商業、尚絅女学院が各1回出場している。常盤木学園の66年の東北選手権での優勝は特筆に値する。この時期、活躍した選手では、末永（宮城第三女子 67—日体大）、三塚（常盤木学園 70—三井生命）、松岡（聖和学園吉田 71—東芝）、遠藤（聖和学園吉田 72—東芝）、郡山（仙台女子商業 72—第一勧銀）、佐々木（聖和学園吉田 75—第一勧銀）、桜井（聖和学園吉田 75—三井生命）、郷湖（聖和学園吉田 76—日女体大）、紺野（古川女子 76—日女体大）らがいる。

第四期（1976年—88年）

聖和学園吉田（86年以降、聖和学園に改名）が圧倒的な強さを誇っていた。インターハイには、登米が出場の83年を除き、12回出場している。86年の東北選手権での優勝は特筆に値する。因みに、平成時代に入ってからでも同校の活躍は目覚ましく、東北選手権では15回優勝を飾り、1997年のインターハイでは優勝を飾っている。この時期の著名選手としては、金 美千代（聖和学園吉田 81—日体大：神戸ユニバーシアードで第6位、チームのまとめ役で活躍—聖和学園教員）がいる。この時期、活躍した選手では、門脇（古川女子 79—東海大）、松浦（聖和学園吉田 80—日体大）、品川（常盤木学園 81—日女体大）、斎藤（常盤木学園 82—三井生命）、山下（市立仙台 82—日体大）、大友（宮城第二女子 82—日女体大）、小松、笹木（いずれも聖和学園吉田 83—日女体大）、木村（多賀城 84—東京女体大）、佐藤（常盤木学園 84—東京女体大）、綱田（古川女子 84—日女体大）、早坂（古川女子 85—日女体大）、坂本（聖和学園吉田 85—日女体大）、亀井（聖和学園吉田 86—樟蔭東女子短大—ユニチカ）、鈴木（聖和学園吉田 86—富士通）、佐藤、大山（いずれも聖和学園吉田 86—日女体大）、浦沢、金

井（いずれも広瀬 86－日女体大）、吉田（仙台商業 86－東京女体大）、横沢（宮城第三女子 87－日女体大）、小島（宮城第二女子 89－早稲田大）らがいる。

因みに、宮城県出身で平成時代に活躍した著名選手としては、相澤優子（聖和学園 92－シャンソン化粧品－東北学院大－富士通）がいる。

<コーチ・指導者>

・荒井 隆 （故人）

1928 年生まれ。戦後、仙台一中でバスケットを始め、聖和学園高校、仙台クラブ、東北電力女子チームの監督を歴任、県協会理事長や副会長も務めた。

聖和学園高校監督 5 年目の 1956 年の鳥取インターハイ初出場、同校のその後の活躍の基盤づくりを行った。

- ・萩原 邦明 1933 年生まれ。仙台二中でバスケットを始める。1959 年から 1988 年 3 月まで、仙台二高の O B コーチとして同校を指導。この間、同校を 5 回（1962 年、63 年、76 年、77 年、83 年）インターハイへ出場させ、1963 年には単独チームで国体に出場させ、1988 年の選抜大会ではベスト 4 へと導いた名将。教員としての部活動指導ではなく、メインコーチを退いた後も本業の傍ら、継続的に現役チームや O B チーム「北陵会」の指導など現在も精力的に活動。1956 年より県協会の理事、その後、副会長も歴任。

- ・船山 鎮雄 1938 年生まれ。山形東高校から東京教育大に進学、62 年 10 月に体育教師として仙台一高に着任、67 年 3 月までの 4 年半、同校指導、64 年から 3 年間連続インターハイに出場、64 年には東北南 3 県対抗 N H K 杯で優勝、国体にも出場、65 年の東北 6 県対抗 N H K 杯でチームを準優勝に導いた。他校の監督・コーチも招聘、県バスケット界に新風を吹き込み、多くの後継者（相沢隆夫、小池寿雄、高橋稔、戸塚博ら）を育成した名将・名伯楽。

- ・渡辺 斌 1940 年生まれ。仙台一高から東北大に進学、宮城県教員。

1968 年から 25 年間、母校の教員としてインターハイに 7 回出場させた名将。

- ・小野 安壮 1944 年生まれ 古川工業から日体大を経て聖和学園吉田に奉職。日体大では 1 年生から一軍入りし、東京オリンピックのナショナルチームの候補選手にも選出された名プレイヤー。聖和学園奉職後も県教員の代表として国体や教員大会で活躍した。その後、聖和学園のチーム指導に注力し、やがて、県内各地から集まった素材を自宅そばのアパートに寝起きさせ、寮生活を送らせている。84 年からは、聖和学園から日体大卒の松浦徳子をコーチに迎え、寮生の面倒も任せている。同校は夏のインターハイや国体の常連校であるが、94 年のインターハイでは準優勝、97 年のインターハイでは優勝を飾っている。春の選抜大会は東北ブロック大会で秋田県勢の後塵を拝していたが、85 年にこれを破り、初出場、しかもベスト 8 入り。その後も、93 年、97 年とベスト 4 入りしている。小野はまさにその立役者であり、名将・名伯楽の名にふさわしい高校女子の指導者。

小野は、また、聖和学園の指導だけでなく、地元の小中学生をチームに招き、交流しながら、根気よくバスケットの面白さを認識させる活動にも注力、県の基盤強化にも尽力した。

- ・相沢 隆夫 1945 年生まれ。仙台一高から東北学院大に進学、学生コーチとして母校を 68 年の広島インターハイでベスト 4 に導いた名将。教員として赴任した登米高校では、女子をインターハイに出場させた。高校指導と共に、登米・栗原地区のバスケットの普及に貢献、登米クラブの誕生と指導に当り、80 年に島根県で開催の全国クラブ大会で第 3 位の好成績を収めた。

登米高校で定年まで勤務。教え子に折原祐樹がいる。

- ・佐藤 久夫 1949 年生まれ 市立仙台高校から日体大を経て宮城県教員。日体大 2 年次に手を骨折し、選手生活を断念し、一転して指導者を志した。最初の赴任校は宮城工業高校、86 年に母校に赴任。56 年、84 年と 2 回インターハイの出場歴はあったが、それまでの赴任校と大同小異の状態で一からのスタートであった。86 年のインターハイに出場させたが、伝統校、有力校の底力を知り、自らの非力さを味わわれた。実績を持つ先輩指導者に教えを乞うことを実践。その前向きな姿勢が徐々に実っていった。技術的には 1 対 1 の能力アップ。つねにチャレンジャー精神を忘れずに。モットーは心技一体。1999 年、2000 年と、志村他の優秀な選手を擁してウィンターカップで連続優勝を成し遂げた名将。2002 年に日本協会がエンデバー計画策定した折、協会選任コーチとして全国を駆け巡る。2004 年に退任後は、仙台大学で教鞭をとり、2005 年からは系列の明成高校のコーチを務め、創部 2 年目で、ウィンターカップに出場。今や日本を代表する高校男子の指導者。

- ・中村 彰久 ここでは県出身で、県外で活躍した指導者として、中村彰久（仙台二 89－東大）を紹介しておきたい。

88 年 3 月神戸で開催の全国選抜大会で第 4 位の仙台二高のメンバー、その後、東京大学に進学、プレーを続け、院卒業後は米ペンシルバニア大学へ留学。

帰国後、関東実業団一部・日本リーグ 2 部の東京海上で 4 シーズンに亘りヘッドコーチを務めた後、帰仙。プロバスケットチーム仙台 89 E R S の設立に参画、同チームのゼネラルマネジャーと社長を務めた。

<宮城県教員チーム>

荒井（聖和学園）・天江（仙台商高）監督のもと、小野（聖和学園）、安達（尚絅女学院）が中心となって 71 年の和歌山国体で優勝、72 年の全国教員大会で優勝、73 年の千葉国体で優勝するといった快挙を成し遂げた。この先生方の頑張りが、教え子は勿論、県のバスケット関係者に勇気を与えた。

<審判>

- ・大江 英俊 1947 年生まれ。市立仙台高校から宮城教育大に進学。宮城県教員。1965 年の宮城インターハイの運営の中心で特に審判の育成に貢献した。自ら A 級審判資格を取得し、後に 9 人もの A 級審判員を輩出する原動力となった。

<協会関係者>

- ・三沢 房太郎会長 ・村上栄一理事長 1951—62 年
- ・三沢 房太郎会長 ・高橋東衛理事長 1962—66 年
- ・三沢 房太郎会長 ・村上栄一理事長 1966—71 年
- ・三沢 房太郎会長 ・荒井隆 理事長 1971—75 年
- ・田中 善次郎会長 ・荒井隆 理事長 1975—88 年

・志村 雄彦（県協会理事）について

2000 年、市立仙台高校在学時にウィンターカップで全国優勝を飾り、慶応大学に進学、同大学でもインカレ優勝を経験。

東芝を経て、2008 年に仙台 8 9 E R S に加入、東日本大震災の救済措置で琉球へ期限付きで移籍、その後、仙台 8 9 E R S に戻り 2018 年に引退するまでプレーを続けた。引退後はゼネラルマネジャーとなり、2020 年 5 月からは社長を務める。ボランティア活動にも熱心で上記大震災での経験を踏まえ、バスケットを楽しみながら防災意識を高める活動を県内各地で行っている。ファンからは「ミズターナイナーズ」の愛称で親しまれている。

<<バスケットボールへの情熱の後世代への継承>>

<仙台クラブの存在>

聖和学園 O G の本田美恵子が帰仙したのを機に、当時、聖和学園の監督をしていた荒井隆の声掛けで誕生。やがて聖和学園 O G だけでなく、常盤木学園他の O G も加わり、74 年の第一回全日本クラブ選手権にも出場。荒井から監督を引き継いだ今野幸弘の尽力もあり、74 年のクラブ選手権では第 3 位に入賞した。また、その多くが結婚後もプレーを続け、ママさんバスケットチームである仙萩クラブの設立に関わったメンバーもいる。その背中を見て育った二世たちにも、そのバスケット魂が、着実に引き継がれている。

<親から子へ、バスケット熱は遺伝する>

親（父）桜井 安信 1911 年生まれ。石巻中学から日本体育会体操学校（現在の日体大）に進学、卒業後、仙台クラブや常盤木学園を指導、戦後は、協会再開時に副会長を務めた。

長男の桜井 俊夫 東北高校から日体大を経て、宮城県教員。明成高校他で指導者として活躍。

親（父）小野 安壮 1944 年生まれ。古川工業高校から日体大を経て聖和学園教員として奉職、チームを指導。現在は県協会長を務める。

長男の小野 拓也 仙台一高から筑波大に進学、現卒は宮城県の中学教員。中体連の強化委員長として活躍。

次男の小野 裕 仙台一高から筑波大を経て宮城県教員、2009 年から聖和学園の指導者として活躍。

長女の小野 由紀子 宮城第二女子高校から宮城教育大に進学、現在は高校教員。

親（父）**相沢 隆夫** 1945 年生まれ。学生時代に宮城一女、仙台一高のコーチを歴任。
県教員になってからは、登米高校を指導。

長女の**相沢 香織** 登米高校から宮城教育大に進学、日本協会公認 A 級審判員として活躍。

親（父）**長岡 潤一** 1949 年生まれ。山形東高校から東京教育大を経て、宮城県教員。
気仙沼高校、多賀城高校、仙台二高他を指導。

長女の**長岡 浩子** 聖和学園から東北学院大に進学、選手として活躍。

因みに母親の**長岡 千恵子** 常盤木学園、仙台クラブ、ママさんチームで選手として活躍。

親（父）**志村 和治** 1952 年生まれ。市立仙台高校から福島大学を経て宮城県教員。
仙台高校他を指導。

長男の**志村 雄彦** 市立仙台高校、慶応大学時代に選手として活躍。現在、県協会理事、仙台 89 E R S 社長。

<番外編>

・・・ご存知でしたか・・・

俳優や歌手でご活躍されている**中村雅俊**さん、実は中・高（宮城県女川中学－石巻高校）時代にバスケットボール選手として活躍されていました。

【編集後記】

今回、宮城県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理に当たり、宮城県バスケットボール協会様、仙台一高OBの渡辺斌様、佐藤富保様、仙台二高OBの向井有我様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

高校籠球ふるさと記（岡山県編）

[事務局]

戦後の岡山県のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのは 1953 年度の就実高校によるトリプルクラウン（インターハイ優勝、国体優勝、西日本優勝）の偉業である。選手の努力もさることながら、監督・コーチ（小野寿吉、山口雅生）・学校当局が三位一体となり取り組んだ、合理的な強化訓練の賜物といえよう。次に登場の総社高校とのハイレベルな戦い、冷静なコーチ・就実の山口、情熱の監督・総社の岡本、両ライバル間での競争が、その後の全国レベルでの活躍に繋がっていったと思われる。

この背景には、戦前の旧制岡山高女、その後の旧制山陽高女の全国レベルでの活躍、1933 年、35 年、37 年の全日本女子総合での準優勝などで“籠球山陽”の名を全国に轟かせたという歴史がある。

さて、岡山県のバスケットの歴史であるが、1923 年まで遡ることができる。当時、旧制矢掛中学の体育教師であった中西静夫（後に西村と改姓）が団体競技としてのバスケットを授業に取り入れたことに始まる。また、同年、大阪で開催の第 6 回極東オリンピック大会に運営面で参画し、諸外国の一流プレーに触れたことで彼のバスケットへの情熱が高められた結果、その普及指導が県下全域に広がっていった。31 年からは県バスケットボール協会の創設に中核的存在としてかわる一方で、37 年まで矢掛中学を指導し、矢中強しの名を近府県に知らしめた。31 年頃までは、男子では矢掛中学、関西中学、女子では岡山高女がずば抜けて強く、県外にまでその名声を轟かせていた。この頃を境に女子の王座は岡山高女から山陽高女にバトンタッチされていった。情熱の指導者、大橋哲一の指導の下、県下はもちろん、西日本に君臨、33 年の全国大会、35 年の明治神宮大会で準優勝、更には 37 年、39 年の全日本女子総合大会で準優勝するまでに成長した。

戦後、1946 年には、戦前の 1933 年に設立の岡山県籠球協会が県バスケットボール協会として再発足した。

このような歴史と伝統を誇る岡山県のバスケットであるが、本誌では 1948 年（昭和 23 年）から 1988 年（昭和 63 年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、審判、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、岡山県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には岡山県バスケットボール協会史（創立より一昭和 42 年 5 月まで）の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称）



先ずは、男子であるが、大きくは4つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948年—60年）

倉敷工業の圧倒的な強さが目立っていた。インターハイには倉敷工業が10回、操山（岡山二）、西大寺、金光学園が各1回出場している。倉敷工業（岡山老松）が、51年の名古屋インターハイでベスト8入りしているのは特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、西中（金光学園54—関西大）らがいる。

第二期（1961年—71年）

倉敷工業と倉敷商業の拮抗時代。インターハイには倉敷工業が7回、倉敷商業が4回出場している。

この時期、活躍した選手では、西（倉敷工63—専修大）、大村（倉敷工63—専修大）、藤原（岡山高松農64—近畿大）、西崎（倉敷工65—芝浦工大）、大熊（倉敷青陵65—東京教育大）、岩佐（岡山高松農66—大商大）、生宗（金光学園66—立命館大）、津崎（児島66—同志社大）、熊沢（倉敷工66—芝浦工大）、千田（倉敷商66—芝浦工大）、岸本（西大寺67—日体大）、湯浅（倉敷工67—日体大）、浅井（倉敷商67—大商大）、福本（関西70—近畿大）、妹尾（岡山東商業71—近畿大）、佐藤（関西72—同志社大）らがいる。

第三期（1972年—76年）

倉敷工業の強さが目立っていた。インターハイには、倉敷工業が4回、岡山朝日が1回出場している。

この時期、活躍した選手では、出口（玉島73—国士館大）、貝原（倉敷工76—日体大—日本鉱業）、野崎（倉敷工77—京産大—熊谷組）、植松（水島工77—京産大）らがいる。

第四期（1977年—88年）

倉敷工業に加えて岡山理大付属が台頭、倉敷工業のライバル的存在になった。インターハイには倉敷工業が6回、岡山理大付属が5回、岡山操山が1回出場している。

この時期の著名選手としては、永井雅彦（岡山理大付属79—日体大—松下電器：ユニバーシアード、アジア選手権。アジア大会日本代表）がいる。

この時期、活躍した選手では、難波（倉敷工80—京産大—熊谷組）、岩ノ上（岡山理大付属81—京産大—三井生命）、小林（倉敷青陵83—青学大）、小林（岡山理大付属83—大東文化大）、田淵（岡山理大付属84—大東文化大）、福田（岡山理大付属85—近畿大）、高塚（岡山理大付属86—東京農大）、一松（岡山理大付属86—青学大）、大長（岡山理大付属86—青学大）、塚原（岡山理大付属86—大商大）、長谷川（岡山理大付属87—大経大）、対馬（児島87—筑波大）、安藤（津山88—筑波大—大和証券）、湯沢（岡山理大付属88—日体大）、舟木（岡山理大付属88—関東学院大）、田辺（倉敷工88—中京大）、尾藤（倉敷工89—京産大）、太田（倉敷工89—中京大）、佐々木（岡山理大付属89—大商大）らがいる。

次に女子であるが、大きくは、5つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948年—50年）

西大寺が活躍、インターハイに3年連続出場し、49年の東京インターハイでベスト8入りしているのは特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、松下、高島、小西、森下、青木、小橋、小坂、岩谷、奥山、赤木（いずれも西大寺）らがいる。

第二期（1951年—62年）

就実が圧倒的な強さを誇っていたが、総社も頑張っていた。インターハイには、就実が11回出場し、52年の酒田インターハイでベスト8入りし、53年の新潟インターハイでは優勝を飾っている。因みに同校は同年開催の国体、西日本大会でも優勝を飾っている。総社は2回出場であるが、54年の東京インターハイで第4位になっている。いずれも特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、丹原、青井、堀口、佐々木、松田、塩見、佐藤、山田（いずれも53年のトリプルクラウン達成時の就実のメンバー）らがいる。

その後、就実と総社からは多くの選手が日紡平野に入社し、名将・名伯楽である尾崎正敏（後述）の指導の下、大輪の花を咲かせ、日本代表選手として活躍している。

著名選手としては、就実から日紡平野に入社した大石豊子（60年マニラで開催の第5回東南アジア親善大会、63年ソウルで開催の東南アジア大会で代表）、竹本育子（60年マニラで開催の第5回東南アジア親善大会、63年ソウルで開催の東南アジア大会、64年ソウルで開催の親善大会で代表）、守安基子（64年ソウルで開催の親善大会代表）、前田洋子（64年ソウルで開催の親善大会、66年中国で開催の親善試合、67年チェコスロバキアで開催の世界選手権大会、68年のアジア選手権大会で代表）のほか、総社から日紡平野に入社した杭田孝子、近藤三枝子（いずれも60年マニラで開催の第5回東南アジア親善大会、63年ソウルで開催の東南アジア大会で代表）、矢吹淑重（60年マニラで開催の第5回東南アジア親善大会で代表）、高本道子（63年ソウルで開催の東南アジア大会、64年ソウルで開催の親善大会、65年開催の第1回アジア女子選手権大会、66年中国で開催の親善試合で代表）がいる。更に金光学園から日紡平野に入社した岡雅子（63年ソウルで開催の東南アジア大会、64年ソウルで開催の親善大会で代表）もいる。

加えて、総社から三菱電機名古屋に入社し、63年ペルーで開催の第3回世界女子選手権大会で代表となった秋山捷子、難波武子、片岡靖子、藤原良美もいる。

このように、この時期の岡山県は、日本女子代表予備軍の宝庫といってもよい。

この時期、活躍した選手では、難波（筆子）（総社—日紡平野）、横田、林、片山、吉富（いずれも総社—三菱電機）、内藤（総社—日本レイヨン）らがいる。

第三期（1963年—67年）

前半は総社、後半になって片山女子が台頭。インターハイには総社と片山女子が各2回、岡山南が1回出場している。ウィンターカップでは63年に総社がベスト8入り、翌64年には第3位になり、65年には岡山南がベスト8入りしているが、いずれも特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、坪井（総社－ニチボー平野）、吉沢、小川、平田、河合（いずれも総社－三菱電機）、赤松（就実－ニチボー平野）、岡田（倉敷65－日女体大）らがいる。

第四期（1968年－86年）

就実が圧倒的な強さを誇り、西大寺が出場の80年を除き、インターハイに18回出場している。

この時期、活躍した選手では、山中、新井、葛城（いずれも就実－ユニチカ山崎）、伴藤（就実－日本電気）、表（就実88－樟蔭東女短大－ユニチカ）らがいる。

第五期（1987－88年）

倉敷翠松（旧校名：片山女子）が強く、インターハイに連続出場している。

この時期、活躍した選手では、久保木（倉敷翠松89－ユニチカ）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・ **山口 雅生** 小野寿吉の後輩として関西中学から早稲田大に進学するも戦時中のため、十分な活動ができなかったが、戦後、地元に戻り、岡山クラブを作り、自らもプレーする傍ら、後輩の指導や、協会の再建に縁の下の力持ち的役割を果たした。コーチとして就実高校にトリプルクラウンをもたらした名将。
- ・ **岡本 誠一** 情熱の監督として総社高校女子チームを指導し、57年の第10回インターハイで第4位、63年の第16回インターハイでベスト8、翌64年の第17回インターハイで第3位と全国レベル戦績を打ち立てた名将。
- ・ **山下 博** 倉敷工業高校のバスケット部顧問としてチームを指導してきた。戦後1948年から66年までの19回のインターハイのうち15回出場という輝かしい記録を樹立しているが、その立役者であり名将（因みに、同校はその後も、88年まで12回インターハイに出場している）。県協会常務理事・参与や、県高体連常務理事、副理事長の要職も務めた。
- ・ **幸重 忠徳** 大分県出身。大分舞鶴高校から日体大に進学、1967年に卒業後、縁あって岡山就実高校に教員として赴任、81年から86年まで6年連続してチームをインターハイに出場させた名将。また、県審判員のリーダーとしても活躍した。

因みに岡山県は、上記以外に下記のような全日本レベルの女子コーチも輩出している。

- ・ **尾崎 正敏** 1931年生まれ。岡山操山高校から早稲田大学に進学、卒業後、コーチとして就実高校を指導し、53年の新潟インターハイで優勝させている。56年からはニチボー平野（その後、ユニチカ山崎）の監督に就任、58年1月の全日本女子総合での優勝をはじめ、その後のチームの輝かしい歴史を作った名将であり功労者である。全日本女子の監督も務め、74年にはアジア大会で優勝、75年の世界選手権では第二位の戦績を収めている。99年からは2期4年にわたり、日本協会の会長も務めている。

- ・ **鈴木 常祐** 1935 年生まれ。岡山朝日高校から早稲田大学に進学、卒業。後、ニチボー平野（その後、ユニチカ山崎）で監督の尾崎をコーチとしてサポートした。ボールゲーム全般を俯瞰できる理論家であり、バスケットに関しては、当時から韓国流の外郭からのショットの必要性を指摘していた。
- ・ **従野 明宏** 1933 年生まれ。岡山朝日高校から東京教育大に進学、卒業後は、学習院中高等科に教諭として着任。55 年から 61 年まで、学習院女子大をコーチとして指導、中高等科では 55 年から 2002 年まで部長として指導した。97 年から 2002 年までは中等科・高等科の科長（校長）に就任。
71 年には第一勧業銀行女子バスケット部の監督に就任、73 年の全日本女子総合で優勝、74 年と 80 年には女子日本リーグでチームを優勝に導いた名将。第一勧銀の監督辞任後も、日本女子代表チームの技術顧問を務めた。
東京教育大時代の恩師である吉井四郎氏の理論を踏まえたコーチングには定評があった。（本年 8 月 18 日永眠。享年 88）
編集者注記：晩年は当会の副会長として、色々のご指導頂きました。なかでも編集者の脳裏に焼き付いているのが、当会主催の中学生初心者クリニックで中学 1 年生初心者に吉井理論をかみ砕いて説明し、自らプレーの指導されていたお姿です。

<審判>

- ・ **小野 雄三** （旧姓・津崎） 小野寿吉の指導の下、日本有数の国際審判員としてアジア大会をはじめとする国際大会、64 年の東京オリンピックでの活躍。
同時に県内はもとより、中国近県の後輩審判員を指導し、その技術向上に尽力した。

<協会関係者>

- ・ **会長 小野 寿吉** 岡山二中から早稲田大学に進学、選手やマネージャーとして活躍後、郷土に戻り、後輩にバスケットを指導し、岡山クラブを結成、バスケットの普及に努めた。戦後は、県協会の再建に努めると同時に中国地区各県の協会の発展にも協力、技術指導や審判員の育成にも尽力した。戦後 15 年間にわたり、県協会会長として、中国地区理事として大きな功績を残した。
- ・ **理事長 大橋 哲一**
旧制高梁中学から日本体育専門学校に進学し、卒業後、旧制山陽高女に就職、女子バスケット競技のレベルアップと協会の基礎作りに貢献した。31、32 年から 39 年まで旧制山陽高女の黄金時代を作り、全国的に岡山県女子のバスケットの声価を高めた。戦後は、前にもまして県協会の育成に尽力。戦後の耐乏生活の中で理事長として果たした功績は高く評価されている。

【編集後記】

今回、岡山県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、岡山県バスケットボール協会様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

事務局だより

[事務局]

- ◇ 1964 年東京オリンピック代表選手メンバーの一人「中村邦彦さん」が 9 月 9 日に逝去されました。明治学院大学から実業団チームの強豪「日本鉱業」に所属し、多くの国際大会で活躍した 1960 年代の日本を代表するレジェンドです。
- ◇ コロナ禍の不安が続く中、事務局が活動のまとめ役として機能しています。このような状態でなく、会員が積極的に振興会の活動に参加できる日が来ることを願っています。
- ◇ 厚生労働省は、要介護の前段階で心身の活力が低下した状態を「フレイル」（加齢による虚弱）と位置づけ、その予防として「運動」「栄養」「社会参加」を 3 本柱として掲げています。スポーツは「フレイル」予防の大事な活動のひとつ、「さわやか福祉財団」の活動と同様に、振興会の活動がバスケット愛好者の「フレイル」予防の一助になればと考えています。
- ◇ **会費納入のお願い** 会費未納の方をお願いします。
振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 0 0 1 0 0 - 3 - 3 1 6 0 3 5
N P O 法人日本バスケットボール振興会

三菱 U F J 銀行 神保町支店 普通預金口座 1 6 8 4 7 4 3
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1 0 0 4 6 8 7
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ 第16回日本スポーツグランプリを受賞した「油井康さん」の記事が「月間バスケットボール1月号」（11月25日発行）の「UP BY ONE」（島本和彦さん）と「気になる話題&耳より情報！」に掲載された。
- ◇ プロ野球の大谷翔平選手がアメリカン・リーグのMVPを獲得したことや、2020年東京オリンピックでのバスケットボールの活躍など、コロナ禍のなか、最近の社会に明るい話題を提供してくれた。これらのことは、疲弊しがちな社会に対してスポーツが活気を与える影響が大きく、固定観念にとらわれることなく前向きに努力すれば、おのずと先が見えてくるという証でもあろう。
- ◇ 多くの学校や地域がスポーツの活動を再開している。プロスポーツでは、入場者による売り上げが収入の大半を占めているのは当然。Bリーグも、12月にはイベント開催の制限緩和を受けて収容人数100%での試合再開を目指すことを目標にあげている。早ければ12月末のリーグ戦から実現する見通しで、「今後もしっかり感染予防対策に努めながらやっていきたい」とBリーグ島田チェアマンは話している。
- ◇ 男子日本代表が中国に完敗した。新チームは、低身長でも世界で十分通用するようにと、①3Pシュート②スピード③厳しいディフェンスの3つを目標に挙げている。国際的にみて、近年の高身長プレイヤーは3Pシュート力が向上して、低身長プレイヤーではなかなか防ぎきれず、逆に低身長プレイヤーは高身長プレイヤーに阻まれ、思うように3Pシュートが打てなくなっている。こうしたことを打開するには、素早い動きからでも確実な3Pシュートが打てるような練習しかないのではなかろうか。さらには高身長プレイヤーに対するディフェンスも厳しくする必要があり、新生男子日本代表には課題が山積だ。
- ◇ バスケットボールのメッカ、代々木第二体育館の借用料金が一日当たり25万円と高騰し、ほとんどの団体が使いにくくなっている。たとえメッカとはいえ、アマチュアスポーツにおいてはなかなか消化できる金額ではなくなった。なんとか減額の道はないものだろうか。

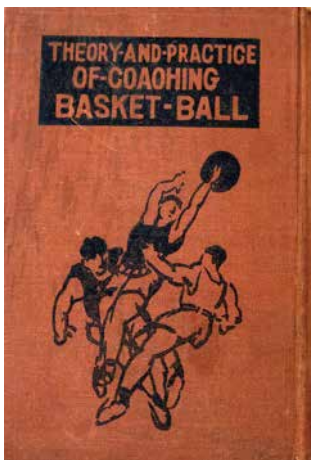
N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp

神田バスケットボール資料室

①



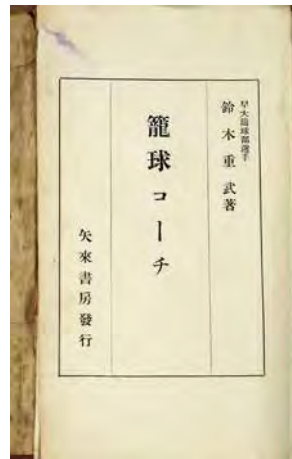
④



⑧



②



⑤



⑨



②



②番の裏表紙

⑥



⑩



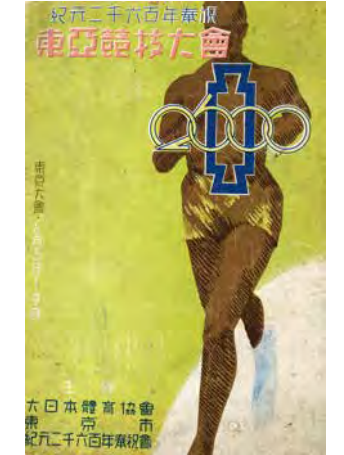
③



⑦



⑪



戦前に発行されたバスケットボール誌・書籍

- ①「日本体育叢書 バスケットボール」著作 藤山快隆 発行 大正13年5月5日
- ②「籠球コーチ」著者 早大籠球部選手 鈴木重武 発行 昭和3年5月10日
- ③「バスケットボール」創刊号 発行者 バスケットボール研究会 発行 昭和3年11月
- ④ Theory and practice of coaching basketball 著者 理想白
- ⑤「指導籠球の理論と実際」著者 理想白 発行 昭和5年10月18日
- ⑥ 第10回極東選手権大会報告書 昭和9年
- ⑦ 日滿交歓競技大会 昭和10年4月13・4日
- ⑧「籠球日本」東京運動社発行 発行 昭和11年7月1日
- ⑨「籠球展望」創刊号 土肥一雄・松本幸雄・楠本清編集
- ⑩「籠球研究」第4号 編集発行人 松本幸雄 発行 昭和12年2月25日
- ⑪ 東亞競技大会番組 昭和15年5月8日

「神田バスケットボール資料室」は 神保町のNPO法人
日本バスケットボール振興会の 事務所内に有ります。